

# 令和3年度 第2回草津市総合教育会議 会議録（要旨）

## ■日時

令和4年2月28日（月）午後3時00分から午後5時00分まで

## ■場所

草津市役所 4階行政委員会室

## ■次第

1. 開会
2. 議題
  - (1) コロナ禍における子どもの体力向上
  - (2) 学びのセーフティネット～「学びの教室」の拡充について～
3. 閉会

## ■出席委員

稻垣委員、松嶋委員、小辻委員、我孫子委員

## ■出席理事者

橋川市長、藤田教育長

## ■事務局出席者

総合政策部	木村部長、岸本副部長（総括）
企画調整課	小川課長
子ども未来部	前田副部長
幼児課	中川参事
教育委員会事務局	南川部長、作田理事（学校教育担当）、田中副部長（総括） 武村副部長（図書館担当）兼図書館長、菊池副部長（学校教育担当）兼学校教育課長
教育総務課	森下課長、永田係長
スポーツ保健課	宮田課長、山本主査
児童生徒支援課	柴原課長、湯浅係長、明田専門員

## 1. 開会

---

- 開会に当たり、市長より挨拶

## 2. 議題

---

- (1) コロナ禍における子どもの体力向上

### 【事務局説明】

- (資料 1 について説明)

### 【質疑応答・意見交換】

- 松嶋委員 学校によってそれぞれ違う取組をされているかと思うが、アンケートの運動が好きと答える児童の割合に差異はあるのか。
  - ・スポーツ保健課主査 学校ごとのデータを見ても明確に上がり続けている学校がない。しかし、1校だけ緩やかに上がっている学校があり、その学校の独自の取組が関連しているかは不明である。
- 松嶋委員 3間の喪失を解決するにはコロナ禍の影響もあり、時間がかかるため3間の喪失を前提とした取り組みなどの考えを聞かせていただきたい。
  - ・スポーツ保健課主査 学校においては、休み時間に長縄跳びや縄跳びをすることにつながるような工夫をしている学校もある。
- 市長 全国体力・運動能力、運動習慣調査で草津市の特徴として優れている種目や劣っている種目があれば教えていただきたい。
  - ・スポーツ保健課主査 今年度の特徴としては、小中学校ともに持久力が低下している。小学生に関しては、男女ともに上体起こし、反復横跳び、立ち幅跳び、ソフトボール投げの4種目の落ち込みが非常に大きい。今年度の落ち込みに関しては、チャレンジタイム、短時間運動プログラムがしっかりできていたのかというところも踏まえ、各校にもう一度徹底して、次年度に向けて取り組んでいくように指導を行っているところである。
- 市長 7ページのチャレンジタイムの動画ページのアクセス数を教えていただきたい。また、アフターコロナでも運動習慣を進めていくための方策も考えておられるか。
  - ・スポーツ保健課主査 動画は月曜日から土曜日までの曜日ごとに作成しており、月曜日のアクセス数が一番多く、7000回を超える再生回数となっている。また、ダンス教室については、市のY o u T u b e チャンネルとレイクスさんのチャンネルでも、同様の動画を公開していただきおり、合計で3000回ほどの再生回数となっている。今後も活用できるよう、協議していきたいと考えている。
- 市長 草津市の結果の落ち込みについてどのように分析され、今後どのようにしていくか教えてほしい。

- ・スポーツ保健課主査 実技の落ち込みやこれからの取組については、小体連、中体連の先生方とともに、この結果をもとに次年度に向けた取組の徹底を先生方との最終の協議をお願いして参りたいと考えている。草津市の大きな課題としては、スクリーンタイムが大きい。特に小学生男子は全国と比べて非常に高く、小学生男子で5時間以上の割合が少々高めであり、小学生女子もここ数年で徐々に多くなってきているところである。
- 我孫子委員 アスリート交流事業で実際に授業を行っていると疲れたという発言が多かったことから、コロナの影響で体力が低下しているのかと印象を受けた。また、7ページのチャレンジタイムの動画公開は、この事業がコロナ禍の期間だけだと非常にもったいないと感じる。短い時間でも継続してやっていくことが非常に大事なため、学校に行って授業が始まる前の時間など、継続的に行うことが良いと思った。スポーツは、年齢が上がると疲れるところはあると思うが、楽しく運動できるかというところが大事だと思う。学校の中だけでは難しいところもあるため、市の体育館や運動場で週に1回、月に1回くらいでスポーツのイベントがあれば、継続してやってもらえるのかと思った。
- 稻垣委員 学習内容は決まっており、体育の時間も限られているためその中に組み込んでいくのは大変厳しいものがあると思う。よって、我孫子委員も言っていたように体力をつけようと思うと楽しく遊びながら継続することが大事である。しかし、次々と取り入れていると教育現場は苦しくなることから、私は以前に体力テストを系統別に分けてその中に遊びの要素を取り入れたことがあり、この取り組みによって、かなりの力がつき、遊びの3間の喪失も解消されると思うため、遊びの一環でやっていってほしい。
- 小辻委員 プロやトップアスリートの方からいろいろ学ぶ機会は子どもたちにとって非常に重要なことであるが、自分の指導の中でわからなかったことや新たなやり方を知るきっかけになるため、教員の方にも非常に重要であると思う。その学校でしか聞けないような話をほかの先生に共有してもらえると先生たちにとっても良い機会になると思う。
- 松嶋委員 下の子が幼稚園に通っており、プレゼントでけん玉をいただいたので、試した結果、3時間、4時間は平気で熱中して練習していた。道具がなかなか用意できない家庭であったとしても学校や幼稚園から与えていただければ、能力の向上を狙った遊びができると思う。稻垣委員がおっしゃっていたことにプラスして、家庭の中にも広げていけると思った。
- 市長 草津市の学校や就学前教育でいろいろな取組をされているように聞いている。そういう中で、さらに1歩前へ踏み出すということが大事である。14ページでコオーディネーション運動のことが書かれおり、草津モデルに取り入れていくと新たな取組として効果が出てくると思う。また、スクリーンタイムが長いと脳の発達が遅れたり、障害が出たりするため、運動することで、脳の発達や学力の向上につながるというような啓発を保護者向けにしていくことが大事である。
- 教育長 文科省から体験活動が青少年に与える影響という報告書が出ており、特に異年

齢や家族以外の方と遊ぶと自尊感情や外向性に良い影響が出ると書かれている。そういったことを保護者の方にPRしていくことが非常に大事なことだと思う。昔は楽しめることが少なかったためか、自然のものを使ったり、自分たちでルールを考えたりしながら遊んでいるうちに自然と体力がついてきたり、遊びを通して体の動かし方を覚えたりしたのではないかと思う。今の子どもたちにもスマホ以外の楽しみや遊びをみつけてもらえるような仕掛けをしていかないといけない。

## （2）学びのセーフティネット～「学びの教室」の拡充について～

### 【事務局説明】

（資料2について説明）

### 【質疑応答・意見交換】

- 市長 学びの教室には定員に対して何人来られているのか。また、定数より多い場合は断るケースがあるのか教えていただきたい。
  - ・児童生徒支援課長 会場の定員は600名に対し、185名が参加しているが定員には満たない状況である。
- 市長 5ページの表を見ていると高穂中学校区には会場がないが、高穂中学校区の方はどこに行っておられるのか、また、この学区に会場がないのは何か理由があるのか。志津まちづくりセンターを活用するなどの次の展開を考えているのか。
  - ・児童生徒支援課長 高穂中学校区に会場がないということだったが、必ずしも自分の校区に行くという訳ではないので、行きやすいところへ行ってもらっている。また、高穂中学校区に会場を設けていない理由は特にない。予算の都合上、多くの会場を設けることができない。
- 稻垣委員 まちづくりセンターの方が通いやすいという希望があるが、今後そういった方向では考えておられるのか。
  - ・児童生徒支援課長 委員の皆様からの御意見を参考にさせていただきながら、来年度以降まちづくりセンターを会場にしていくことも考えていきたいと思っている。
  - ・稻垣委員 私のような退職した教員がボランティアで行っても良いと思いがあるため、地域のそういった方を上手に使っていくことも良いかと思った。
  - ・児童生徒支援課長 参考にさせていただきたい。
- 稻垣委員 委託業者の先生は、教員免許をお持ちの方か。それとも塾のような講師の方か。
  - ・児童生徒支援課長 Z会（エデュケーションナルネットワーク）というところに委託しており、多くの方が免許を所有されているが、中には学生で免許のない方もおられると思う。

- 松嶋委員 料金が安く、アンケートの結果も良くメリットが多いのであれば、予算の関係もあるが、会場を増やしても良いと思う。また、めざすべき将来像が3つあるが、行政側が調整できる部分としては、会場の設定と児童生徒に講師を配置するという部分になると思う。今後、事業を進めるに当たり、課題があれば教えていただきたい。
- ・児童生徒支援課長 個別指導になると、講師の数が大幅に増えるため予算の関係が一番の課題ではあると思う。会場については、校区に1つという構想はあるため、今後はほかの会場についても予算の関係もあるが、検討して参りたい。
- 教育長 今後、講義型から少人数型に切り替えていくのか、併用をしていくのか詳しく教えていただきたい。
- ・児童生徒支援課長 会場や学年によって、個別指導と一斉指導を使い分けながら参加希望を募っていくと考えている。保護者や子どもたちから一斉指導の方が良いと言われるかもしれないが、わかりやすい指導をすると考えると個別に指導する方が効果は上がりやすいと思う。
- 教育長 個別になると定員数が限定的になることが懸念されると思う。また、定数が割られていますが、PR関係はどのようにされておられるか。
- ・児童生徒支援課長 各学校でチラシの配布とホームページに掲載させていただいている。
- ・教育長 チラシを見て保護者がどのように感じているかはわからないが、今後の検討材料になると思う。
- 松嶋委員 会場が遠いという御意見や講義型の授業だとそれぞれ参加者の難易度に合わないなどの御意見があったが、動画を配信する等、草津市独自の学習のプラットフォームをつくりコンテンツを充実させていくことによって、会場に行かなくてもいつでもどこでも質の高い授業が受けられる環境を整えるということも1つの案だと思う。ICT機器の利用をさらに促進してタブレット端末をより有意義に使えるようにしていくことも良いかと思った。また、講義型の授業は同じ学年の子が同じ時間に集合しないといけないが、個別指導は時間の制約もなくなるため、保護者も子どもも時間の都合がつけやすくなると思う。すべての会場を変えるのではなく、どこかの会場を試験的に変えてみてその結果を踏まえてやり方を改善していくと良いと思う。
- 我孫子委員 学校以外のところで自分の居場所があるということで勉強以外のメリットがあると思った。会場が近くにあると通いやすいため、規模が小さくても増やしてほしい。また、1人1台あるタブレットも上手く活用していってほしい。テスト対策は学校によって範囲が違うため、行政側で調整できる部分ではあるのかと思った。
- ・児童生徒支援課長 デジタル機器を利用した授業は魅力的ではあるが、いわゆる学習塾のようなものをめざしているのではなく、基礎的な学習意欲を身に付けた子を育てたいと思っている。
- 稻垣委員 参加者数は少ないが、そこに参加できていない家庭にセーフティーネットが

必要ではないかと思う。学力は子どもにとって大きな力になる。認知能力が低い子どもほど非行に走りやすいと聞いたことがあるため、セーフティーネットはそういった子をなくす役割があると思う。学力に关心のない親、学力に关心を持ちたくても何をすれば良いかわからない親もいるため、そういった家庭にこそ学校で配るプリントが届いていないと思う。学びの教室に行きたいと思わせるようなPRが大切だ。

- 小辻委員 居場所づくりの観点で言うとただ学びに行くだけではなく、余った時間等でほかの子との交流ができるとより良くなると思う。気になったことだが、保護者の声に参加させて良かったと言ってくださる方が多かったが、学習習慣が身についたかという問い合わせに、あまり思わない、思わないという回答がやや多いと思うため、学習習慣につながる何かがあると良いと思った。
- ・児童生徒支援課長 学びの教室の開始当初は居場所づくりと基礎学習の定着をめざしていたが、現在は居場所づくりとして、小1から小3の児童に対し、放課後自習広場を各学校で実施していることから、現在行っている学びの教室は、居場所づくりとしては行っていないため御理解いただきたい。

## 総括

- 教育長 原点に立ち返ってセーフティーネットがどのように機能しているのか、本当に来てほしい人に来てもらえるように視点を変えて見ていく必要がある。現在子どもの貧困についても社会問題化しており、これから少子化を迎える中で貧困の連鎖になってしまふと、社会的な大きな損失にもなる。これについては、教育委員会としても大きな課題の1つだと思っており、令和4年度もこの事業を進めていく上で、皆さんからの御意見をしっかりと受け止めてセーフティーネットとしての働きができるかどうかの検証から始めていきたい。
- 市長 基礎学力が生きる力になり、社会生活ができるため、誰1人取り残してはいけない。SDGsの理念にも誰1人取り残さないとあるため、今後は拡充や充実を進めていかないといけない。しかし、来年度の予算はすでに、決まっておりますので再来年度以降に少人数指導を試行的に行うことや会場を増やすなどの議論をしていこうと思う。また、定数に余裕があるので少しでも来てもらえるように就学援助や子どもの貧困を福祉サイドの部局が取り組んでいるところがあるため、部局間連携の中で考えていただきたい。

## 3. 閉会

- 閉会に当たり、市長より挨拶